資料 2-2

平成 23 年度大台ケ原ニホンジカ個体数調整の実施状況

1. 2011（平成 23）年度の個体数調整の概要

2011（平成 23）年度は、くくりわな、装薬銃（猟銃）、アルパインキャプチャー、麻酔銃等を用い、62 頭を目標頭数として個体数調整を実施し、実施状況等に応じて適宜検討を行う。

これまでの実施方法と特に異なる点としては、緊急対策地区全体（西大台を含む）における個体数調整を実施することである。

1.1. 実施予定日数

装薬銃（猟銃）　：大台ヶ原ドライブウェイ閉鎖期間中に 4 日程度
くくりわな（30 基程度）：40 日程度
上記以外の方法　：10 日程度

1.2. 実施状況

装薬銃（猟銃）　：4 月 16 日から 19 日の 4 日間
くくりわな　：4 月 9 日から 4 月 15 日、4 月 19 日から 4 月 27 日までの 16 日間

2. 2011（平成 23）年 4 月の個体数調整の報告

結果概要

捕獲数と性・齢区分内訳

捕獲の種別	性・齢区分						総計
	オス		オス計	メス		メス計	
	成獣	幼獣		成獣	幼獣		
くくりわな	13	5	18	22	3	25	43
装薬銃	1	2	3	7	0	7	10
総計	14	7	21	29	3	32	53

2.1. 方法

2011（平成 23 年）4 月の個体数調整に用いた方法は、わな（くくりわな）、装薬銃（猟銃：散弾銃、ライフル銃）であった。装薬銃による個体数調整については、ドライブウェイ閉鎖期間中である 4 月 16 日から 19 日にかけての 4 日間、地元猟友会である上北山猟友会の協力のもと実施した。

わな（くくりわな）による個体数調整は、4月9日から4月15日、4月19日から4月27日までの16日間（14晩）実施した。春期の個体数調整は効率性が高いことが、これまでの事業結果により明らかになったため、またニホンジカ保護管理検討会の意見として春期に集中して捕獲を実施することを提言されたことを受け、30基程度のくくりわなを3人で作業を行う予定であったが、約1.5倍の労力を投入した。

表1　2011（平成23年）4月の個体数調整スケジュール

月	4																		
日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
装薬銃								←	—	—	→								
くくりわな	←	—	—	—	—	—	→				←	—	—	—	—	—	—	—	→

2.1.1. 装薬銃による個体数調整

装薬銃による個体数調整は、奈良県猟友会上北山支部の協力のもと、実施した。実施日には、8:00に経ヶ峰広場に猟友会、環境省、自然研が集合した後、猟友会メンバーが3名程度のグループになり、ビジターセンターまでの行程を約20分おきに1グループごとに流し猟を行った。ビジターセンターまでの流し猟を終了した後、当日の巻き狩りの詳細打ち合わせを行い、猟友会会員が「射手（立つ）」、自然研職員が「追い込み（勢子）」役となり、巻き狩りを行った。また、安全確保のため、人の出入りの可能性がある場所に環境省が待機し、人が進入する際に本事業の実施についての説明、個体数調整作業者への連絡を行った。

射手（立つ）は予め打ち合わせで決めた場所に待機し、追い込み（勢子）はホーンを鳴らしながら決められたルートを歩いた。

表2　装薬銃による捕獲に関わった人数

	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日
猟友会（巻き狩り及び流し猟射手など）	15	12	14	9
自然研（勢子）	5	5	5	7

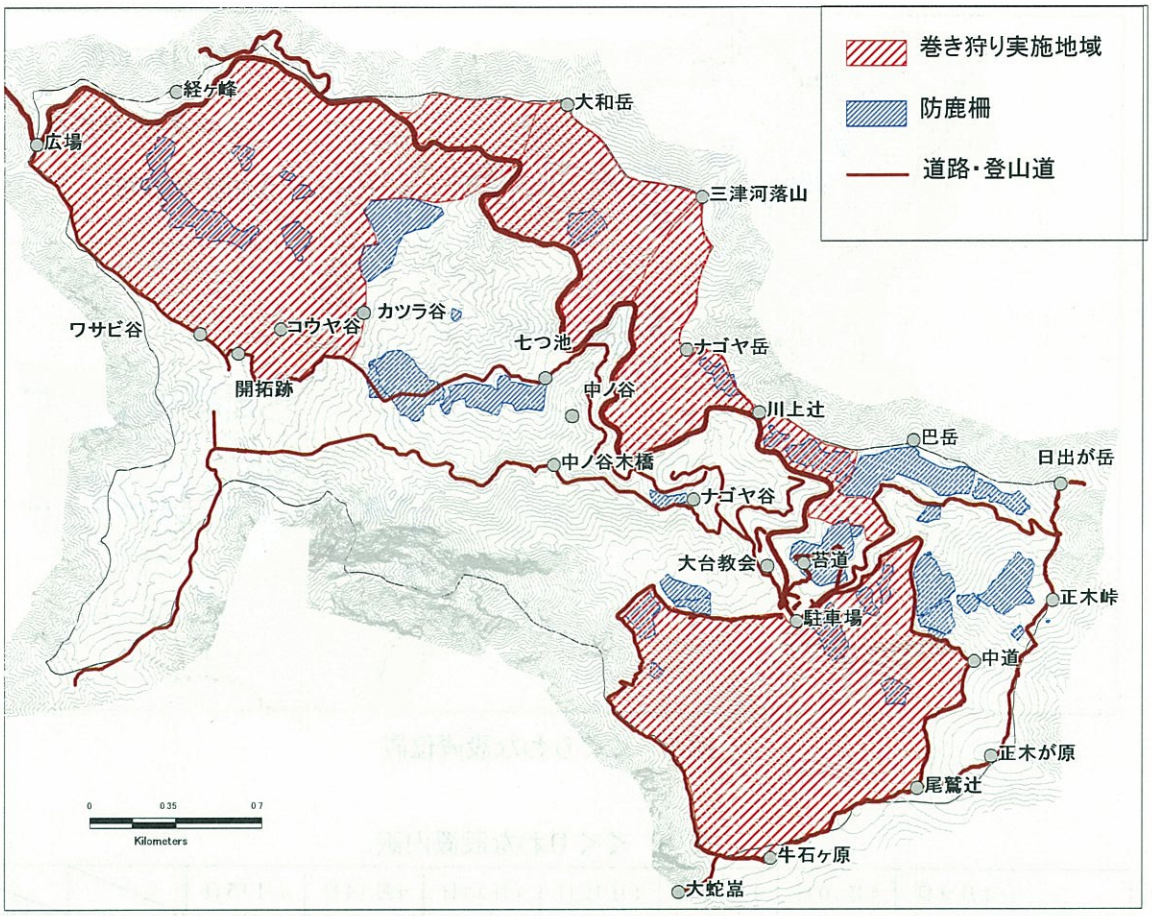

図１　巻き狩り実施地域

2.1.2.　くくりわなによる個体数調整

くくりわなによる個体数調整は、くくりわなによるニホンジカの捕獲を行った経験のある自然研職員が実施した。くくりわなの設置は、ニホンジカの出没状況を誘引餌の採食状況や自動撮影ビデオカメラの撮影状況に応じ、最大 18 箇所／日で行った。くくりわなの設置基数は各箇所 2～5 基、のべわな基数は 648 基（trap-night）であった。

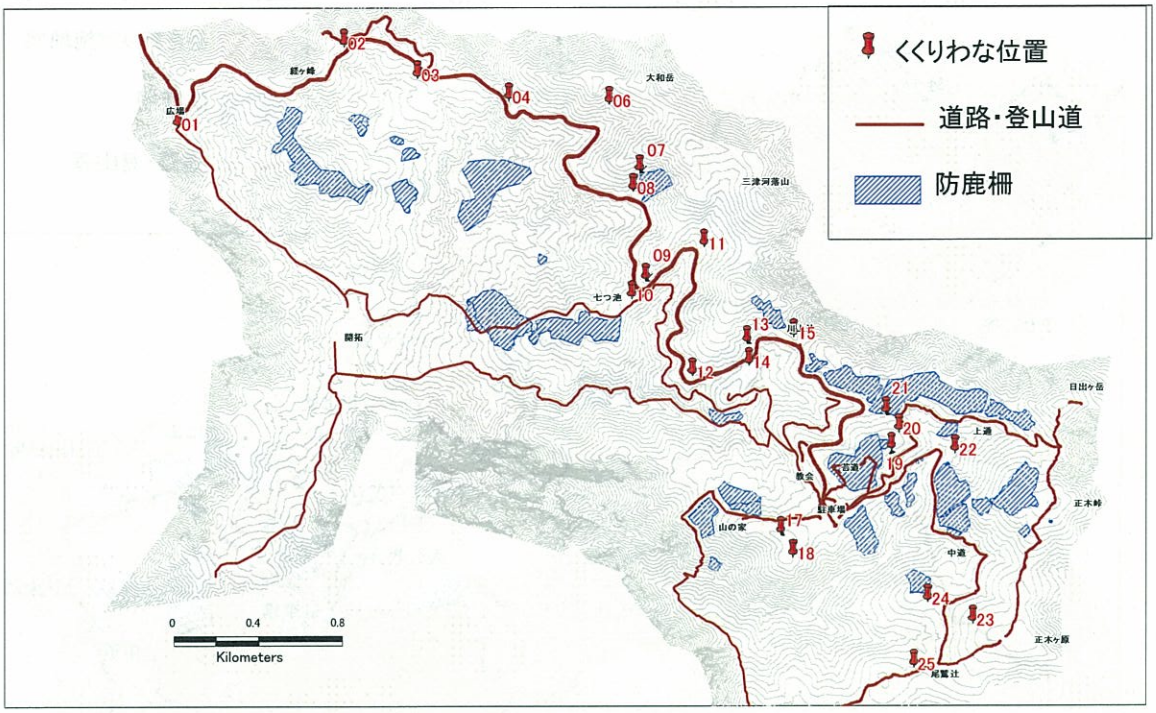

図２　くくりわな設置位置

表 3　くくりわな設置内訳

	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日	4月15日		
基数	8	38	38	50	52	52	26		
箇所数	2	14	14	17	18	18	9		
人数	4	4	4	4	4	4	7		
	4月19日	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日	4月27日
基数	14	40	51	51	51	51	52	52	22
箇所数	4	15	18	18	18	18	18	18	18
人数	7	7	4	4	4	4	4	4	4

2.2.　結果

2.2.1.　装薬銃

装薬銃による個体数調整では、オス３頭、メス７頭、計 10 頭を捕獲した。流し猟で捕獲したオス３頭メス６頭計９頭は、オス３頭のうち、２頭は幼獣であり、残り１頭は 2010～2011 年にかけての積雪により柵内に進入し融雪後閉じ込められた成獣であった。巻き狩りにおいてもメス１頭の捕獲であった。すなわち、例外である１頭を除いて、メスと視認される個体が捕獲された。

巻き狩りにおいては、猟友会が通常行っている犬を使用し決まった猟場での捕獲と異なり、人による勢子、平坦で対象個体の走るスピードが異なること等が捕獲成果に影響した。

表 4　装薬銃による捕獲数

	性・齢区分						総計
	オス		オス計	メス		メス計	
	成獣	幼獣		成獣	幼獣		
流し猟	1	2	3	6		7	9
巻き狩り				1			1
捕獲数	1	2	3	7	0	7	10

2.2.2.　くくりわな

くくりわなによる個体数調整では、オス 18 頭、メス 25 頭、計 43 頭を捕獲した。昨年度までの捕獲対象であった地域（東大台）での捕獲数は 17 頭、今年度から新しく捕獲対象となった地域（西大台）での捕獲数は 26 頭であり、ナゴヤ岳周辺、正木が原周辺で比較的多く捕獲された。

表 5　くくりわなによる捕獲数

	性・幼獣成獣の別						総計
	オス		オス計	メス		メス計	
	成獣	幼獣		成獣	幼獣		
捕獲数	13	5	18	22	3	25	43

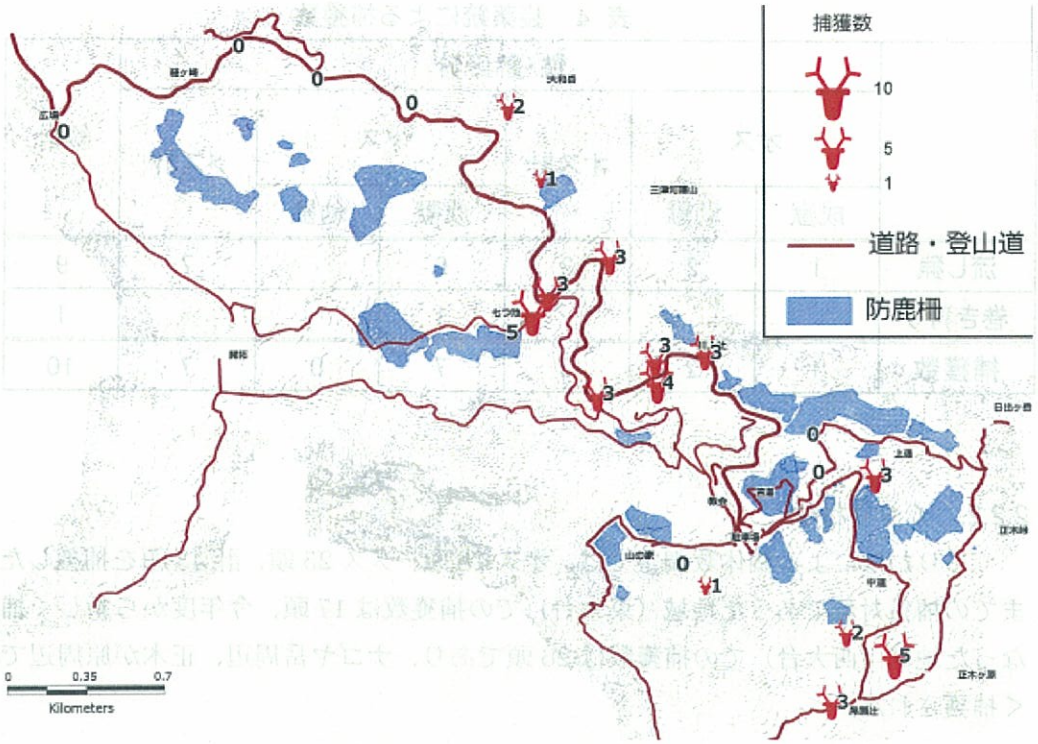

図３　くくりわなによる位置別捕獲数

2.2.3. 捕獲効率

- 装薬銃による捕獲効率は、昨年度と比べ高い値となった、開始当初の効率までは上がらなかった。
- くくりわなの捕獲効率は、ほぼ昨年度並みの捕獲効率であった。

表 6　2011 年 4 月の手法別捕獲効率

	効率算出基準	捕獲効率
装薬銃	銃ののべ丁数	0.20
くくりわな	のべ基数	0.07
	のべ箇所数	0.19
	のべ作業人数	0.59

表 7　捕獲効率の経年変化

手法	年度								
	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22
麻酔銃	0.51(0.26)	0.97(0.49)	0.53(0.27)	0.40(0.20)	0.28(0.14)	0.74(0.37)	0.09(0.05)	0.60(0.30)	0.00(0.00)
アルパインキャプチャー	0.2(0.1)	0.28(0.14)	0.22(0.11)	0.04(0.02)	0.16(0.08)	0.16(0.08)	0.20(0.10)	0.26(0.13)	0.29(0.15)
Box Trap	-	-	-	0.08(0.04)	-	-	-	-	-
装薬銃	-	-	-	-	-	0.44(0.44)	0.43(0.43)	0.27(0.27)	0.13(0.13)
くくりわな	-	-	-	-	-	-	0.24(0.53)	0.10(0.37)	0.20(0.59)

()：作業者 1 人あたりの捕獲効率

麻酔銃、装薬銃の捕獲効率＝捕獲頭数／のべ銃丁数

アルパインキャプチャー、BoxTrap の捕獲効率＝捕獲頭数／のべわな設置基数

くくりわなの捕獲効率＝捕獲頭数／のべわな設置箇所数

参考：くくりわな設置基数での捕獲効率（H20=0.025、H21=0.026、H22=0.043）